

# 大好き泉川まちづくり新聞

発行 大好き泉川まちづくり実行委員会

発行日 平成二十年十月一日

## 先進地研修に参加して

泉川連合自治会 会長 篠原 茂

今年度の連合自治会の先進地研修は、8月29日（土）徳島県の上勝町を43名で訪問しました。上勝町は、徳島市内から約40km、四国山脈の南東山地に位置する人口約2千人、高齢化率約48%と過疎と高齢化が同時進行している四国で一番小さな町です。また、上勝町は高齢者の皆さんが「葉っぱビジネス」に取り組み、パソコンを操作しながら出荷し、生涯現役でがんばっています。

今回の研修テーマは、上勝町が全国に先駆けて取組んでいる「ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）運動」についてでした。「ゼロ・ウェイスト」とは、「無駄、浪費をやめ、ごみをなくす」という意味です。物の無駄遣いをせず、リサイクル、リユースを進め、生産段階から処理に困らない製品を作る事で、焼却・埋め立て処理される有害なごみをなくしていこうという理念です。

上勝町での取り組みは、

- 1 生ごみ全量リサイクル → コンポストを使い全量各家庭で堆肥化・土に還元。  
ゴミ回収車での回収は実施していない。
- 2 ごみの34分別の実施 → 町内1箇所にあるゴミステーションに各自が持ち込み  
ゴミステーションは年末年始を除き  
毎日午前7時から14時まで受け入れています。  
自分で持っていけない方はシルバーで回収します。
- 3 くるくる回して再利用を推進 → 遊休品を展示し、自由に持ち帰ることができる。

このような事を推進する事によってごみ処理費用は、一人あたり年間九千円と格安となっています。

私達の泉川校区で全て採用は出来ませんが、せめて「生ごみ半減」を目標に取り組みたいと思います。家庭に土地がある方は、コンポストを使用し、庭に埋める方法を推進しましょう。自治会女性部が作っている愛媛A12（あいに）を使えば臭いを出さずに手軽に処分出来ます。また、紙類を全て資源ごみとして回収すると、泉川のごみは半減します。

上勝町に出来て泉川で出来ないことはないはずですが、住民の皆さんの日頃の心がけ次第でゴミは減少すると信じています。泉川連合自治会では、「ごみ減量化宣言」を行うことを検討しています。皆さんと知恵を出しあい、地球にやさしいまち、泉川にしていこうではありませんか。



### 泉川校区ごみ減量化宣言（案）

- 1 買う前に、まずその商品が本当に必要なのかどうかを、よく考えます。
- 2 マイバッグを持っていき、レジ袋は受け取らないようにします。
- 3 過剰包装や、無駄なものは、断ります。
- 4 詰め替え商品を利用します。
- 5 食材の無駄や食べ残しなどを少なくします。
- 6 生ゴミを出すときは、水切りを徹底します。
- 7 校区行事は「紙コップ、紙皿」の代わりに「ガラスコップや陶器の皿」を使うようにします。
- 8 生ゴミは、コンポスト容器や電動生ゴミ処理機を利用して、減量に努めます。
- 9 資源ごみはリサイクルします。



# 研修旅行に参加された皆さんの 声を紹介いたします

「ごみゼロ宣言」に学ぶ

新居浜市連合婦人会

続木 明美

新居浜市においてごみ問題については、平成21年度よりごみ有料化が検討されている。如何にごみを減量するか真剣に考え、まず、家庭から出る生ゴミはボカシを使って推肥に変身させ、燃やすごみの40%を占める生ゴミがなくなれば、ゴミの総量が減少します。

徳島県上勝町では、生ゴミは各家庭でコンポストや電動式生ゴミ処理機で推肥化し、全国に先駆け平成15年に「ごみゼロ宣言」を行い、未来の子供達にきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、生ゴミ以外は34分別して、焼却、埋め立て処分をなくす努力をしています。

このような住民の行動により、地域環境を良くするため、世界中に多くの仲間づくりを行い、地球を汚さない人づくりに努めています。私達もこの学習を機会として大いに努力し新居浜が県下のモデル市となるよう行動を起こそうではありませんか。最後になりましたが、今回お世話下さいました泉川自治会の皆様本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。今後ともよろしくご指導下さい。

廃油石鹼と一緒に作りませんか。

ゴミ減量化と防災センターを訪れて

近藤 論

私は8月29日「ゴミ減量化」を目指して成果をあげている徳島県上勝町へ行きました。上勝町は四国で一番小さい町で、人口も2千人の静かな田舎町です。上勝町の町や風景を映像で説明されたあと、ゴミ分別所へ案内されました。ここでは、ゴミを34種類にも分別していて、空瓶、空缶、ペットボトル等はきれいに洗ってリサイクルに出しているそうです。新聞紙や段ボールもリサイクルされた強い紙紐で十文字に縛り、きちんと整理されていました。リサイクルされた紙紐は、丈夫で雨に濡れても強くなかなか解けにくいとのことでした。私は、この小さな町でゴミ処理の立派さに感動しました。泉川地域でも上勝町を見習って「無駄、浪費、ゴミを少なく」をモットーに取り組まなければならないと思いました。午後からは徳島県立防災センターに行き、りっぱな建物と設備にびっくりしました。防災センターでは、消火器を使って各自一人一人が燃え上がるモニターに向けて消火を体験したり地震では、震度5・7の揺れを体験してウワーウオーの声飛び交っていました。そのあと、煙の中や突風の強い風を受けて、よろめきながら賑わっていました。

日頃は余り体験できないことが体験出来て参加した人達も私同様に素晴らしい研修の一日だと思えます。災害や地震は日常の備えが大切であることもよくわかり、地震の恐ろしさも改めて痛感いたしました。今後は住民一人ひとりの理解を深め合いゴミの減量と防災に今回の研修を生かし日々の活動を進めたいと思います。

徳島上勝町ごみ問題の研修と

徳島県立防災センター研修・防災体験

久保 千代子

ごみ処理状況

「無駄、浪費、ごみをなくす」物の無駄遣いをせず、企業、生産段階で処理に困らない製品を作る事で焼却・埋め立て処理する有害ごみをなくして行く大きなスローガンを掲げ、住民が一体となって「34分別とその行方」に賛同し協力し合って行う行動は実に美しく思いました。

これ機会に、「町づくりとはなにか、町の活性化とは」課題に「彩（いろどり）」市場を開き、農家に生まれ本場にこの町に住み、良かったと言える元気な町になってきました。一言が印象に残っております。

「ごみゼロ」にするには決められたことを守り、まず私から・・・

一人一人が守り気をつければきっと美しい町になります。

防災研修・防災体験

自然災害との戦いです。天災とは繰り返して来ます。災害から生命、財産を守る手助けに唯一の体験であったと思います。自然災害について家庭内で話し合い、身を守る方法、財産の保護等取り組みをする時期がきております。防災活動を一時のものとしてしないで継続して関心を持つことが重要かと思えます。又、「自主防災組織」地域での取り組み住民が近所の安心安全に関心を持ち、それを地域全体に広げてゆくことが重要です。

## ご協力ありがとうございました

泉川まちづくり寄付金協力者（20年度・後期）  
悠遊社（株）                      リアントール  
播磨産業株式会社  
有限会社   一色造園緑地  
ケアサポートセンター喜光地

## ★お知らせ★

10月4日（土）「ふれあい四国路 2008」が新居浜文化センター大ホールにて開催されます。基調講演の後に、四国各県代表による発表があり、篠原会長が泉川校区について発表します。